

# 11.11 反原発 デモ禁圧やぶる 20万人大占拠!

11月11日、原発反対を訴え全国から集まった人々によって霞ヶ関一帯は埋め尽くされました。学生も、法政大をはじめ全国から集まって反原発の声をあげました。

福島からも思いが次々と語られました。「避難民の無念を晴らさなくてはならない。残りの人生をかけて原発をなくす。」「私が着ているタイベックは、私の息子や収束作業をしている作業員と同じものです。紙です。すぐ破れます。原発作業員のことを考えてください。フクシマは終わっていない。私たちは負けません。」

この行動に対して、東京都・裁判所は前代未聞のデモ禁圧を行いました。「一般利用者の通行が阻害されるなど混乱が生じた」など、デモがデモであるから禁止だというもの。問題は、避難を余儀なくされ、生活や仕事、仲間や家族の命まで奪われながら何の補償もなく、国家が被曝を強制しているということです。その国家がデモを禁圧し、再稼動を進めようとしている。この日、多くの人々がこれに対して怒り、デモを訴えて集まり、デモ禁圧を打ち破って大占拠行動を行いました。

野田政権は建設中の原発の工事を再開させ、新安全基準を3月にもつakって一気に再稼動を進めようとしています。毎週金曜日の官邸前行動に集まり、今回の行動をさらに発展させて、再稼動も新規建設も絶対に阻止しよう！



**全学連**

**全日本学生自治会総連合 (斎藤郁真委員長)**

TEL 03-3651-4861 <http://www.zengakuren.jp/> [mail\\_cn001@zengakuren.jp](mailto:mail_cn001@zengakuren.jp)

# 武田君への無期停学を ただちに撤回しろ！



**処分・学祭規制への怒りの  
メッセージを寄せてください！**

門前またはメールでメッセージを集めています！



＜文化連盟＞

ブログ：<http://08bunren.blog25.fc2.com/>

Mail：[bunren08@yahoo.co.jp](mailto:bunren08@yahoo.co.jp)

## 無期停学処分への 再審査請求を提出！

### 再審査請求（抜粋）

今回、私にかけられた無期停学処分は内容的にも、手続き的にも不当である。よって、ただちに処分を撤回するよう強く求める。

「教職員や学友への迷惑行為」とあるが、不当な内容である。法政大学の職員はこれまで私や、私の学友に対し無断での盗撮や尾行などの人権侵害を日常的におこなってきた。これらは、迷惑行為ではないのか。

教員も、職員が私達への不当な人権侵害を行っている現場で、彼らと共に行動、あるいはその行動を黙認する事で積極的にこれらの人権侵害に加担してきた。国際文化学部部の島田雅彦教授は「なぜ教授がこの場に職員とともにいるのか」という私からの問いに対し、「動員だよ」と答えた。「教育」を掲げておいて、いざ自分自身が問われると開き直る。このような教授の偽善的な態度は弾劾されて当然ではないのか。

また、教職員はこれらの行為に対し「どういった基準で、こういった行為を行いうるのか。いかなる合法性があるのか」という私達の質問にこれまで一切回答できていない。私たちが正式な手順を踏んで提出したこのような趣旨の申し入れ書や、質問状を全て無視しておいて、直接抗議されると「誹謗中傷」「恫喝、あるいは侮蔑的な言動」と非難する。果たしてこれが教育機関として適切な態度といえるのだろうか。

「学友に対する迷惑行為」についても、学祭実によって、私達文化連盟が学祭説明会や全学説明会の場から排除された事に対する学祭実への抗議を指しており、何ら「迷惑行為」として非難されるいわれはない。文化連盟としてこれに抗議するのは当然である。学祭実には私達に（排除の理由を）説明する責任があるはずである。それができない以上、「学友に対する迷惑行為」を行っているのは私達を暴力的に排除した学祭実の方ではないのか。

正門前での情宣活動について「連日、学外者とともに拡声器を使って本学を誹謗中傷し」とあるが、これも不

当な内容である。正門前は法政大学の敷地内でなく、表現活動の自由によって情宣活動の権利は保障されているはずである。そして、「本学を誹謗中傷」とあるが、私達は事実を述べ、大学当局を批判しているだけで、何の根拠もなく非難しているわけではない。大学側に正当な手順を踏んだ申し入れ書や質問状を一切無視されており、大学の職員によって行われる日常的な人権侵害等に対し、直接抗議するしか手段がないのである。「学外者」なる規定も、法政大学を批判し、私と同じように不当に処分された学友が沢山含まれており、法政大学と何ら関係がないわけではなく、彼らが大学を批判する情宣活動を行うのは当然である。私達の情宣活動を「本学に対する誹謗中傷」と非難する前に、なぜ他大の「学外者」を含め沢山の人がこの情宣活動に集まるのかを法大当局はよく考えてみるべきだろう。

私にかけられた無期停学処分は、全法大生への攻撃であり、絶対に認めることはできない。本年10月19日、学祭規制や不当処分に象徴される法大当局の暴力的な学生支配に対して怒りが爆発し、キャンパス中央は1000人の法大生で埋めつくされた。これに対する「報復」として、国際文化学部は前代未聞のスピードで処分を強行した。国際文化学部は、私を呼び出した10月23日に臨時教授会を開き、その日のうちに「処分通知」を送りつけた。このことから分かるように、国際文化学部が当該である私から何ら事情を聞かず、一方的に処分を強行したことは明らかである。国際文化学部は、一体学生を何だと思っているのか。学生の行動を抑えつけ、従わなければ処分をして大学から叩きだす。果たしてこれが「教育」なのか。「学問」なのか。国際文化学部及び法大当局は恥を知れ。

私は無期停学処分をただちに撤回するよう強く求め、再審査を請求する。再審査が行われるならば、私は処分の不当性を証明するつもりである。却下するのであれば、私は法的措置を含むいかなる手段をもっても処分を撤回させる所存である。